

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473301008
法人名	有限会社 真全
事業所名	グループホーム まっとう
訪問調査日	平成20年10月9日
評価確定日	平成20年12月12日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1473301008号
法人名	有限会社 真全
事業所名	グループホーム まっとう
所在地	横浜市緑区長津田町2365 (電話) 045-989-2266

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 5日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	21人	常勤 12人	非常勤 9人	常勤換算 10.8人

### (2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2 階建ての 1,2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	36,750 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	500,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	315 円	昼食	525 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 1,575 円			

### (4) 利用者の概要 (8月5日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜新緑総合病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは小高い丘の上に建つ木造2階建てで、共用スペースやウッドデッキからの見晴らしが良い自然環境の中にあります。付近には小学校や地区センター、体育館、神社、障害者施設があり、交流が盛んに行われています。ホームの理念は「ともに自然体(まっとう)に生きる」見守り介護を主体とし、自由に安心して暮らす生活を支援しています。ほとんどの家族がホームを訪問して生活の様子を見たり、意見をケアプランに反映したり、イベント行事を手伝うなど、利用者・家族・ホーム一体の運営をしています。職員は認知症の利用者とのコミュニケーション手法である「バリデーション」の良さを理解するにつれ最近では安定しており、明るくオープンな活動に満足しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は取り組みを期待したい内容はありませんでしたが、今回自己評価を行ったことにより、まっとう通信の発行が遅れていることに気づき、直ちに発行することにしており、前向きに取り組んでいます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員から意見を聞きとりまとめ、ユニット会議や全体会議で共有化しています。職員は利用者一人ひとりの家族の意向を多面的に検討して、自己評価に反映しています</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、20年3月に設置以降ホームの生活状況、活動や出来事について報告しています。公園へのベンチ設置要望に対しては子供の遊び場で置けないとの回答を得たり、職員の保有資格に関する質問、ホーム横にある道路の舗装交渉状況などが話題に上っています。現在、畑の耕作を頼んでいます。今回の評価結果は、運営推進委員会や家族にも発表する意向です。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>音楽の好きな入居者の希望をかえなるべくコンサートに出向き、食事をすませて帰るなどの「デート」には、ご家族も感激してくれました。清潔な環境作りへの取り組みとして、内靴やスリッパを週に1度は洗うなど、ご家族の期待にこたえています。意見箱はありますが、家族が率直に意見を言うので、その都度対応しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホーム前の道路を行政や家族、地域と共に整備する活動をしました。小学生がホームに来てくれたお礼として、卒業式には入居者6人が出向き、お祝いのお花を一輪づつ渡すなどの温かい交流があります。散歩の途中で、近所のお宅からお花をいただいたり、声をかけてもらっています。ホームの夏祭りには、地域の方も遊びに来てくれました。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、「ともに自然体(まっとう)に生きる」とし、単独事業体として会社とホーム一体の運営理念としています。特に、認知症の利用者とのコミュニケーション手法である「バリデーション」を取り入れています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自然体で生きるを目標に、この1年「バリデーション」を学習し徹底する活動をしています。利用者の尊厳を第一に、日々の見守りに徹することにし、地域で暮らすための諸活動も進め、利用者・職員とも安定した生活をしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時のあいさつや会話から、小学生のホームへの訪問、お礼として卒業式で花の贈呈、運動会の見学、地区センターの利用、イベントへの地域住民の招待、ボランティアの協力など、地域との付き合いは多面的に行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員から意見を聞き、とりまとめ、ユニット会議や全体会議で共有化しています。職員は利用者一人ひとりの家族の意向を多面的に検討して、自己評価に反映しています。今回の自己評価の検討過程で、「まっとう通信」の発行が遅れていることに気付くことができ、直ちに発行することにしています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、20年3月に設置以降ホームの生活状況、活動や出来事等を報告しています。公園へのベンチ設置要望に対しては子供の遊び場で置けないとの回答を得たり、職員の保有資格に関する質問、ホーム横にある道路の舗装交渉状況などが話題に上っています。現在、畑を耕作を手伝ってもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから地区センター側に出る道路の舗装について、行政と自治会の協力を得て完成しています。行政からの見学要望への開放、地域外の利用者の諸手続きなど市町村の連携は行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話や毎月の利用料の請求に合わせ報告をしています。家族会を持ち、家族が面会や各種行事に参加する際に報告をしています。ほとんどの家族が訪問され、ヒヤリハットの情報も伝えており、利用者の状況を把握しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、家族会、苦情相談窓口がありますが、意見などは家族との交流の場で出されています。音楽の好きな入居者の希望をかなえるべくコンサートに出向き、食事をすませて帰った時は、家族も感激してくれました。清潔への取り組みとして、内靴やスリッパを週に1度は洗うなど、ご家族の期待に応えています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者中心のホーム活動が定着するに従い異動は少なくなっています。異動がある場合はお別れ会を催し、涙を流す方もおり、頑張ってお花を渡す場面を作るなど、自然に別れを惜しんでいます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は希望や指名で参加を支援しています。研修結果は極力記録し、全体会議で発表しています。訪問看護時やバリデーションの職員勉強会、最近では自主勉強会もおこなわれています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	緑区のグループホーム協議会、近所の障害施設との挨拶、ケアマネジャーの横の情報交換や紹介も行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>問い合わせや相談があると、利用に関する説明、施設見学や事前面談、体験入居や行事などへの招待などで少しずつ溶け込む工夫をしています。特に、当初は寄り添って出来るだけ本人の言葉を聞き、理解するようにしています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の混乱して見える行動の裏には必ず理由がある事を理解し、それに共感し受け入れ、ごく自然に落ち着いた状態に移れるように支援しています。職員もストレスから解放されお互いの信頼関係を築き支えあっています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は個々の認知の混乱の状況に合わせた手法を用いる事で思いや意向を引き出し、アセスメントシートやノートにまとめています。特に聞き取り難い利用者にも時間をかけ丁寧に意向を把握しています。本人とご家族の希望で1週間の外泊(家族での温泉旅行)も実現しました。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の元気でいたい、仲良くしたい、また、家族の外出させたいなどの希望を基に、日ごろからの見守りで得た情報をユニット別のカンファレンスで具体化し、家族の同意を得て、介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月毎に見直しています。利用者や家族の意向にをベースに全体会議やフロア会議で意見を出し合い見直しています。急な変化がある場合はその都度見直しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っており、訪問看護ステーションが毎週1度来訪してくれます。毎月、提携病院と訪問看護ステーションから個別の診療スケジュールが送られてきて、入居者の健康管理をしています。入居希望者は1週間程度の体験入居をしたうえで決めています。訪問マッサージも希望者は受けられます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者は、入居時に提携医に変更しますが、病気のため今までのかかりつけ医に看てもらっている人もいます。通院は原則家族としていますが、提携病院に行くときは無料、他病院への介護タクシーの実費は負担してもらい、職員が付き添う事もあります。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、重度の利用者がおりますが、医療面の判断を要する場合は、今までのかかりつけ医と連携をとりながら応じています。急変した場合はいつでもその病院に行く体制になっており、管理者はターミナルの研修を受講し、職員全体で学習している最中です。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営側と職員で、個人情報の守秘義務についての誓約書をかわしています。家族にも同意書をもらっています。書類は事務室におき、入居者の目に触れないようにしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のペースが乱れない限り、遅起き、遅食も可としています。個人個人の状態により昼食の後、午睡を1~2時間するように支援したりしています。リビングでくつろぐ人、個室にいたい人と自由をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食会社から食材を配達してもらい、栄養管理の整ったメニューを職員が、入居者に手伝ってもらいながら作っています。「母の日」、「父の日」は男性、女性に分けて、好きな外食を楽しみました。職員がベランダで「流しそうめん」など企画してくれたり、普段と違った食事を楽しめるよう工夫しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の壁面が開け閉めできるユニークなもので、またがないでも入れます。浴槽はセンター配置で、介助もしやすくなっています。自立の人は毎日でも入れますが、必ず見守りをしています。重度の方で浴槽に入るのが危険な利用者はシャワー浴をしています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に2回、エアロビの講師が訪問し、音楽と動きを楽しみ、リハビリの効果も出ています。編み物、新聞を読む人、折り紙、カラオケなど、みんなで楽しめます。洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水遣りなどのお手伝いもあります。訪問当日は入居者がかつて趣味にしていた盆栽の話が職員が丁寧に聞いていました。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は職員と入居者が散歩にでます(一人平均週に2回程度)。朝7時に起きて、公園まで「大賀ハス」を見に行ったり、車で買い物に行ったついでに喫茶店でお茶を飲んだりしています。ベランダがぐるりと広く眺望もよいので、ベランダでの外気浴は日々行っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は朝6時から夜9時までは自動で開閉します。内玄関は、暗証番号で開け閉めします。非常ドアに通じる階段は、勾配がきついのと内側からは開けられるドアなので危険防止のため閉めています。各室のベランダ側の窓からはベランダに出られますが、柵は安全に配慮された高さになっています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に2回行っています。1回目は入居者も含めて消火活動を行い、非常階段を使って下りる訓練をしました。2回目は消防署から、救急救命の指導を受けました。今後は地域との連携をとりながら、備蓄への取り組みも考えていくつもりです。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の水分量、食事量、バイタルを記録しています。嚥下困難な重度の人、ミキサー食の全介助でがんばっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の緑を存分に取り込んだ設計で、リビングからの風景はすばらしいものがあります。廊下は車椅子2台が行き違ってもあまるほどの幅があり、廊下の下部、居室の下部は板壁で車椅子対応の配慮もあります。2階の廊下の天井は、梁をいかした山小屋風な雰囲気、ベランダからは夏の花火大会が楽しめます。周辺の景色も含めて、居心地のよい空間になっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備えつけのベッドは電動ベッドを設置しており、居室内に備えつけのクローゼットもあります。エアコンのほか各室に空気清浄機があります。それぞれ使い慣れたタンスや写真、仏壇を持ち込んでいます。排尿癖のある人の部屋は、床材を変えてにこがしみこまない工夫をしています。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームまっとう
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	横浜市緑区
記入者名 (管理者)	施設長 林つた子
記入日	平成20年8月5日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ともに自然体(まっとう)に生きる」という理念の下に、サービス提供を行っている。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	バリデーションを共通のケア方法として、取り入れている。ユニット別のカンファレンスや全体会議を通して、理念の共有、実践を行っている。玄関に、理念を掲示して、毎日必ず目に入るようにしている。		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会を設立して、御家族との連携を図っている。運営推進会議や地域行事への参加を行って、地域の方々と交流している。また、ホームで催される行事に、地域の方々をご招待している。小学生の訪問などもある。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際にご挨拶をしたり、お話をしたりしている。。ホームでの催事に、地域の方々をご招待している。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの方々に来て頂いたり、小学校の卒業式にお祝いに行ったり、運動会を見学したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご家族の発案により地域の高齢者や住民に役立つよう道路を整備するよう活動している。地域の高齢者、御家族の方々から助言を受けながら、地域の高齢者が気軽に立ち寄れる施設を目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を実施する意義を理解し、改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの現状を正直に報告し、助言を頂いている。助言や意見を生かし、サービス向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を図りながらサービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を閲覧して必要な方には顧問弁護士の指導を受けるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員オリエンテーション・全体会議・カンファレンス等の場において話し合い、虐待が見過ごされることのないよう常に注意を喚起している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入居・退居の際は十分に説明をして、納得して頂いている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	可能な限りお話を傾聴する時間を多く持ち、ご家族の意見をききながら職員会議やカンファレンスにおいて話し合い、反映させている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	来所時や電話の折、ケアプラン説明時において詳しく報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見箱を設けたり、来所時や電話の際、また家族会において得られたご意見を基に、運営の改善を行っている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ユニット別のフロアー会議や、全体会議をそれぞれ1ヶ月に1度行い、運営に反映させている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	職員が協力して、シフト調整にあたっている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	入居者様が不穏にならないように、対応を統一している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部勉強会の実施、講習会、外部研修に関する告知や参加を支援し人材の育成に努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等に参加したり、同業者と交流したりネットワーク作りを行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と個別面談を行ったり、懇親会を行うなど、ストレスの軽減に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し評価するよう努めている。認知症ケアの仕事に誇りを持ち、向上心を持って働けるよう努めている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困りごとや望む生活についてできるだけ本人の言葉で聞くようにし、それを理解し、受け入れ、信頼関係が築けるよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困りごとや不安など十分話しを聞き、受け止めるよう努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状をよく理解し、今何が必要なのか考え対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お茶や行事などに招待したり、体験入居を利用して頂いたり、少しずつ溶け込んでいただけるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬い、教えて頂いたり、お手伝いしたりしながら共に支えあいながら生きていく関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして情報を共有し、様々な場面で多く関わっていただき、本人を中心として支え合う良い関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解し、日常の情報を提供したり、行事、お誕生日会などへの参加により、良い関係が築けるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのかたの訪問や、関わりのあるかたの訪問を快く迎え、支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないように職員が間に入り、会話やレクリエーションを楽しみながら係わり合いが持てるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事などへのお誘いや、気軽に立ち寄れる雰囲気を作り、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を良く聞き把握するようにしている。出来る限り、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人からの情報などから生活歴や馴染みの暮らし方などの情報、これまでのサービス利用の情報提供等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、介護記録などにより日々の心身の状態等を総合的に把握するように努め、安定した生活が送れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	情報を共有し、ケアカンファレンスなどで意見を出し合い、本人や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にアセスメントを見直し、介護計画書を作成している。特変があった場合はカンファレンスを行い、介護計画を作成して、利用者の状況に応じた介護を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきなどを個別記録や申し送りノートに記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	全利用者を対象とする2週間毎の内科医による定期往診や歯科医の往診、訪問看護を行なっている。又、利用者の希望によって、訪問理美容の利用や家族に代わっての通院介助の支援も行っている。又、希望があればコンサートなどの同行も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お誕生日会や行事、イベントなどにボランティアの協力をいただいたり、地区センターより図書の利用、小学校との交流など行っている。消防署に講習を依頼したり、民生委員に相談をしたり地域資源との協働を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて特養、老健、療養型施設等との連携を図り、本人と家族の希望に添えるよう支援をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働して本人の意向に応じた総合的なケアマネジメントを行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医とホームの関係を築くと共に定期的内科医師の往診を受け、適切な医療が受けられるように支援している。毎月の診療スケジュール表に医師の往診や、家族と一緒に通院や職員付き添いの通院等を記載して支援をしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の病院との連携を図り、認知症の相談をしたり、治療を受けられるように支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問看護により、気軽に相談しながら、日常の健康管理や職員の勉強会などを開き支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の担当医師、看護師、社会福祉士等と本人の状況について話し合い、情報交換や相談をしながら最善に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	必要に応じて家族やかかりつけ医師と話し合っている。将来的には、受け入れに対して職員教育や医師との協力体制等を図り、より深く家族とも話し合っていく必要がある。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要性を感じている。職員教育や医師との協力体制等を図り、今後の重度化に備えて検討していかなければならないと考えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	安心して移れるよう心身の状態に配慮しながら情報提供やアドバイスを行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの尊重、個人情報保護を徹底している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	訴えがある時にはお話を傾聴し、思いを引き出せる様な対応を行い、本人の自己決定を尊重している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿って、できるだけその人らしく日々過ごして頂けるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容を利用しているがパーマや毛染め等本人の望むようなスタイルができるよう支援している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には職員と共に調理をして頂いたり、盛り付けや片付け等して頂いている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの飲み物やおやつはご家族に持参して頂いたり、職員と買い物に行ったり、その都度対応している。お酒やたばこについては取り組みを行っていない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを理解するよう努めている。タイミングを見計らってトイレの声かけや誘導を行い、排泄の失敗が減るよう配慮し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添って入浴している。コミュニケーションを大切にしながら、入浴を楽しめるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を尊重し危険性や緊急性が無い限り、できるだけ干渉せず自由に過ごしていただき、本人のペースで休息や安眠がとれるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、草花の水やり、テーブル拭き、洗濯物たたみ等の役割活動やハーモニカ、オカリナ等の趣味、エアロビ体操や外出による気分転換等の支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じてお金を持ったり使ったりすることの大切さを理解しているが現在あまりできていない。自分でお金を払い買い物をする機会を多くもつよう支援していく。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって、散歩や買い物、ドライブにでかけるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見など、イベントを設けて本人様またはご家族様と共に外出している。又個別でもコンサートに出かけたり、早朝の「大賀蓮」の観賞に出かける等の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそって電話をして頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビング、居室の環境を整え、いつでも気軽に受け入れできている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で拘束についての認識を共有し、拘束しないようにしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については危険防止の為、やむを得ず施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通しプライバシーに配慮しながら、見守り、巡視等により安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご家族様の了解を得て、お預かりしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	看護師や消防署などによる講習や勉強会、ヒヤリハットなどを活用し、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会や講習会を行っている。マニュアルを作り目に付くところに貼っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等で消防署の講習を受けている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン説明時などにおいて、リスクの説明を行い、ご理解頂き安心できる生活が送れるよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック、申し送りなどを通じて早期発見に努めている。情報の共有化。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報の共有、服薬チェック表を活用している。薬剤師による薬についての研修を行い、勉強している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品やバランスの良い食事を勧めるなどして、予防、解消に努めている。体操をしたり、排泄チェック表の管理を行い、飲食に配慮、考慮し予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、訪問歯科の指導の下、支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表を用い、1人ひとりの摂取状態の把握に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	汚染された物の取り扱い、手洗いうがいなど十分注意し予防に努めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、冷蔵庫など、常に清掃を行い、清潔保持に努めている。賞味期限のチェックと調理用具の管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清掃や花を置くなどして明るい雰囲気を保っている。玄関周りにベンチを置き、誰でも座って休めるように工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	細かいところにも目を配り、整理整頓を行っている。季節の花を飾ったり、飾り付けを行い居心地良く過ごせる様工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルを配置し、ゆったりできるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや椅子、家具など、ご本人様ご家族様の好みに合わせてご用意頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンについては適宜調節を行っている。また空気清浄機も必要に応じて使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、手すりの設置など安全環境整備を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご本人に合わせ、必要な支援のみ行うようにしている。居室のドアに好みの絵を貼ったり、字を大きくするなど混乱を防ぎ、わかる力を活かせる工夫をしている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで外気浴をしたり外の景色を眺めたり、洗濯物を職員と共に干したり、時には外でお茶を飲んだりして楽しんでいる。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「共に自然体に(まっとうに)生きる」という理念の実践。認知症の高齢者の心をより理解し、穏やかで充実した人生をまっとうして頂く為にバリデーションを取り入れた介護を行っている。